1. **本時の学習のテーマをつかむ**

○いきなりですが、「あなたは佐賀県出身だから、信用できない。」と言われたら、その人に何と言葉を返しますか。

※生徒に発言を求めたりしながら、意見を出し合う。

・どういうこと？言っている意味がわからないんだけど。

・佐賀県民が何か悪いことしたの？

・佐賀県出身というだけで、わたしの何が分かるんですか？

・出身地で人を判断するなんて、おかしくないですか？

○そうですよね。みなさんは、住んでいる場所や出身地、もっと簡単に言えば“地面”で人を判断することができますか。できませんよね。しかし、この世の中には、地面で人を判断するという人権問題があります。それが、「部落差別」です。「同和問題」とも呼ばれます。「部落」というのは「集落＝住んでいる場所・出身地」のことです。「差別」とは、「人をいじめたり、バカにしたり、仲間はずしにしたりすること」です。今日は、この「部落差別」について、みんなで考えてみましょう。

**◎部落差別について考えてみよう**

1. **部落差別がどのようにして生まれたのかを知る**

　○では、この「部落差別」がどのようにして生まれたのかをみてみましょう。

　○差別は、差別は差別する人がいるから起こります。差別される側に問題があるのではなく、差別する側の間違った意識、具体的には「偏見（偏った見方）」「予断（思い込み）」「安易な同調（周りの意識に流される）」「知らないものに対する不安感（避ける）」などが差別を生み出します。例えば、

　　　　①肌の色や体つきなど「見た目」に対するまちがった意識

　　　　②文化や宗教、民族などに対するまちがった意識

　　　　③病気に対するまちがった意識

　　　　④性に対するまちがった意識

　　　　⑤身分や職業に対するまちがった意識

　　　　⑥住んでいる場所や出身地に対するまちがった意識

見た目

文化・宗教・民族

性

病気

身分・職業

**差　別**

住んでいる場所・出身地

○今日、考える「部落差別」は、どのまちがった意識から生み出されたと思いますか。

　　　・⑥住んでいる場所や出身地に対する意識

　○そうですね。でも、その意識のもとになったのが、⑤身分や職業に対する意識です。

　　みなさんは、社会科で江戸時代の身分制度について学習しましたね。身分ごとに住む場所が決められ、身分によって人の価値が違うというような意識が人々に刷り込まれました。それが、明治時代に「いわゆる解放令」が出され、身分制度がなくなると、身分に対する差別意識は、住んでいる場所に対する差別意識に変わっていきました。これが、「部落差別」のはじまりです。人間はいつも差別する理由を探して、まちがいを犯してしまう悲しい生き物だということがわかります。

1. **部落差別をなくすために、どのようなことに取り組まれたのかを考える**

　○この「部落差別」によって、差別をされる地域が生み出されていきました。この差別は、就職差別・結婚差別として表れ、その結果、人々の生活は苦しいものになりました。子どもたちは家庭を支えるために幼い頃から働き、その結果、教育を受ける権利を奪われていきました。教育を受けられないと、就職も難しくなります。このようにして、親から子どもへ「差別による悪循環」がつながっていったのです。

　○しかし、みなさんが歴史の授業で「全国水平社」の学習をしたように、差別の被害を受けた人々は、仲間とともに差別をなくすためのたたかいを進めました。その結果、今の世の中ができています。

　○では、部落差別をなくすために、どのようなたたかい（取組）が進められたのでしょうか。①就職差別をなくす取組、②厳しい生活を改善する取組、③結婚差別をなくすための取組、④まちがった意識を変えるための取組、の4点から考えてみましょう。これまで学習したことがあるものもあると思うので、思い出しながら考えてみましょう。

（1）個人で考える。（5分）

（2）グループで話し合い、ホワイトボードにグループの意見をまとめる。（１０分）

（3）全体で意見を交流する。(１０分)

|  |  |
| --- | --- |
| 1. 就職差別をなくす】   ◇（　　　）に家族のことを書かなくていいようにした。  ◇（　　）で自分の適性・能力以外のことを質問させないようにした。 | 1. 厳しい生活を改善する】   ◇（　　　）をタダにした。  ◇0才から（　　　）にあずけられるようにした。  ◇奪われた（　　）を取り戻そうとした。 |
| 1. 結婚差別をなくす】   ◇（　　）の条文を変えた。  ◇勝手に（　　）の情報をとられないような制度をつくった。 | 1. まちがった意識を変える】   ◇部落差別をなくすための（　　）をつくった。  ◇悪質な差別に対し、（　　）を起こした。 |

　○では、各グループで話し合ったことを出し合ってみましょう。

　　※グループのホワイトボードなどを使って意見を共有する。

　○いろんな考えがでましたね。では、実際はどのようなことに取り組まれたのかをみてみましょう。

|  |  |
| --- | --- |
| 【①就職差別をなくす】  ◇（履歴書）に家族のことを書かなくていいようにした。  ◇（面接）で自分の適性・能力以外のことを質問させないようにした。 | 【②厳しい生活を改善する】  ◇（教科書）をタダにした。  ◇0才から（保育所）にあずけられるようにした。  ◇奪われた（教育）を取り戻そうとした。 |
| 【③結婚差別をなくす】  ◇（憲法）の条文を変えた。  ◇勝手に（戸籍）の情報をとられないような制度をつくった。 | 【④まちがった意識を変える】  ◇部落差別をなくすための（法律）をつくった。  ◇悪質な差別に対し、（裁判）を起こした。 |

※補足解説

　　　【①就職差別をなくす】

　　　　　・昔は、履歴書や面接で家族のことなどその人に関係のないことまで尋ねられる

ことがあたりまえでしたが、今では禁止されています。

【②厳しい生活を改善する】

・この取組のおかげで、小・中学生は教科書をタダでもらえるようになりました。

赤ちゃんも0才から保育所にあずけられるようになり、親は安心して働けるようになりました。

　　　　　・子どもやおとなの学習会をつくり、自分たちで勉強し、文字や教育を取り戻しました。

【③結婚差別をなくす】

　　　　　・明治時代の憲法では、結婚には親の同意が必要でした。しかし、部落差別とたたかってきた人々の要請もあり、日本国憲法では、「結婚は両性の合意のみにもとづく」という条文になりました。

　　　　・2011年に、役場で戸籍が不正に取得される事件が全国で発生しました。再発を防ぐために、部落差別をなくす取組をすすめる人々によって、「第三者から戸籍の請求があった場合に、本人に知らせる」という本人通知制度が整備されました。佐賀県では、すべての市町で制度が実現しており、このような都道府県はまだ少ない状況で、佐賀県は率先して人権施策を推進しています。

　　【④まちがった意識を変える】

　　　　・1969年には、「同和対策事業特別措置法」が施行され、住環境の整備などさまざまな事業が全国で行われました。2016年には、インターネット上の差別もふまえ、「部落差別の解消の推進に関する法律」が施行され、部落差別をなくすための教育にさらに力を入れていくことになりました。

　　　　・インターネット上で部落差別を煽る情報を出していた人物に対し、裁判が起こされ、2023年現在、違法であるという判決が出ています。（高裁判決。最高裁へ上告中）

　　○差別を受け、差別とたたかってきた人々や自分の中の差別意識に気づき、差別をなくそうとした人々によって、差別は確実になくなってきているんですね。このような取組の上に、今の私たちの社会や生活があるんですね。

**4　今の社会をふりかえり、これから差別のない世の中を創っていくために、自分にできることを考える。**

（1）「差別の本質」と「差別のなくし方」について考える。

　　○「差別の本質」と「差別を無くす方法」について、確認していきましょう。

※生徒たちと話し合いながら、（　　）に入る言葉を埋めていく。

**★差別の本質**

①差別は、（差別する人）がいるから起こる。

②差別は、する人もされる人も誰も幸せに（しない）。

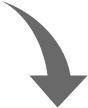
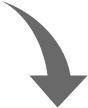
③差別をなくそうとすれば、（みんなの幸せ）につながる。

・差別はなぜ起こるのでしょうか。…差別する人がいるから起こる。される人がいるから起こるのではない。

・差別は、される人はもちろん幸せにならないが、する人が幸せになることも絶対にない。（逮捕されたり訴えられたり、社会的ペナルティ／罰を必ず受ける。）

・差別をなくす取組は、全ての人々の幸せにつながっている。（すべての人が恩恵を受けている。）

**★差別のなくし方**



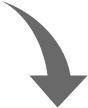
差別をなくす

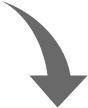
すべての人の（人権）が

守られる。

（差別する人）を

減らす。なくす。





（ルール）をつくる。

（学び）を保障する。

・「差別をなくす」ためには、何を減らしたりなくしたりすればよいでしょうか。

・差別する人がいなくなれば、差別はなくなります。

・差別する人を減らしたり、なくしたりするにはどうすればいいでしょうか。

・社会のルール（法律・条例・制度など）をつくること、人権や差別について多くの人が学ぶことができるようにする（学びを保障する）ことが必要。

・そうすれば、すべての人の人権（幸せ・夢・安心・安全）が守られる。

・新たな差別が起こったときには、みんなで考え、ルールをつくっていけばよい。

・このサイクルをまわしていくことで、差別はなくしていくことができる。

（2）今日の学習をふりかえり、これから自分にできることを考える。

　○いつの時代も、不合理な差別を受けてきた人々が社会を変えてきました。

・中世「河原者」…日本を代表する文化を創造した

・近世「身分差別を受けた人々」…渋染一揆など差別に対するたたかいを始めた

・現代「部落差別を受けた人々」…差別をなくし、世の中をよりよいものに変えてきた。

　○また、多くの人々が自分たちの意識の誤りに気づき、少しずつ、しかし確実の差別のない世の中をつくってきました。差別する側の意識が変わることで、社会のルールである法律や制度がつくられ、すべての人が自分らしく安心して暮らせる社会に近づいて生きています。

　○みなさんも、これからこのような差別をなくす社会の動きをつくっていく一人になるんですね。今日は「部落差別」について考えました。今日の学習をふりかえって、部落差別をなくすために、これから自分が取り組んでいきたいことを考えて書いてみましょう。難しいと思ったら、今日の学習の感想を書いてください。